

第1回技術委員会意見等集約表

	区分	委員名	発言要旨	事業者の説明要旨
1	資料2	片谷	<ul style="list-style-type: none"> ・事業者独自の取組みについて、地域にお住まいの住民からのリアクションをまとめたものはあるか。 ・事業者見解を回答として示すことで、了解をいただけたのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参考資料1のとおり、方法書及び準備書の段階で素案を提示し、意見募集を行い、提出されたご意見に対して事業者の見解を回答しています。 ・ご意見に対して、現時点での見解を説明させていただいたもので、ご了解を得られたものとは認識しておりません。
2	4-1 大気	片谷	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の排ガスに関する計画値について、準備書328ページにおいて予測条件に不確実性があるという記載があるが、最大値で予測しているのであればこの懸念は本来ないはずで、記載は適切でないのでは。 ・現況施設の値をバックグラウンドにして、尚かつ新しい施設の排ガスの影響を上積みした値を予測値とするような安全な予測値となっているようであれば、その旨をきちんと説明をする必要があるのではないかと。 ・マニュアル等に示された今回の予測手法が、この事業にあった手法であるか確認が取れていないとしたら、評価書までには確認をとっていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・排ガス濃度については最大値ですが、影響要因となる計画施設の仕様や条件が固まっていないことから、不確実性という表現をしています。表現については検討してまいります。 ・大気質のバックグラウンド濃度については、既存焼却施設の排ガスの影響を含んでおります。評価書において修正したものを記載します。 ・現地の実情に応じた検証が可能かどうかを確認し、対応してまいります。
3	4-1 大気	片谷 亀山	<ul style="list-style-type: none"> ・住民意見の中で、予測の信頼性について危惧されたものがあるので、より丁寧な説明について評価書までに対応いただきたい。 	<p>【事後回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価書において丁寧な説明となるように対応します。

	区分	委員名	発言要旨	事業者の説明要旨
4	4-1 大気	梅崎	<ul style="list-style-type: none"> ・一般環境大気の測定結果について、停炉時と稼働時の測定結果に差がないという記述のみで、評価がされていない。 ・降下ばいじんについて、施設が新しくなることで数値が減るものと解釈してよいか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・焼却施設の煙突排ガス以外の排出源が多く、停炉時と稼働時の比較をしても明確に切り分けることは困難であり、また濃度の差が明確ではなかったことから、現況施設の稼働時の評価に及ばなかったため、稼働時の測定濃度の評価は明記しておりません。 ・明確に下がるとは言い切ることはできません。また、バックグラウンド濃度に現況施設の排出分を含む条件としているため、現在の濃度より良くなるという結果としておらず、現在の濃度よりわずかに上昇する結果となります。 (一般論として大気中の物質濃度は、全くその拡散、気象の条件が一緒であれば排出量に比例するため炉が新しくなれば濃度は下がる。だが今回の場合、隣の敷地であるので、拡散の状況は同じとは言えない。そのため事業者が説明したとおり、減るかどうかは分からない。または大きくは増えないという形なのでは。[片谷委員])
5	4-1 大気	野見山	<ul style="list-style-type: none"> ・準備書278ページの環境汚染に対する施設等の整合性に関する評価結果において、近接民家の予測値が目標の0.04を越えており、対策によって1時間値の日平均予測濃度が0.0393まで減少しているが、この値では基準に近すぎるため、対策も含めてもう少し検討し、予測値を出すことはできないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近接民家の予測値については、最大の危険側の条件を足し合わせたものであるため、その対策として、建設機械を近接民家寄りに集中させない、工事車両の台数を減らす等の保全措置などが考えられます。
6	4-2 騒音	塩田	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1 49～52ページに予測結果をまとめた表があるが、暗騒音と稼働する機械の騒音レベルを分けて表に示した方がよいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1では詳細の説明は省きましたが、準備書の356ページ及び379ページに暗騒音と寄与値を分けた結果を記載しております。
7	4-2 騒音	塩田	<ul style="list-style-type: none"> ・今までは現場測定による現況値と予測値を比較するようなハード的な評価の仕方がほとんどであるが、継続的な測定をおこなうようなソフト的な考え方を評価に盛り込むことはできないか。データ蓄積の継続性ということは非常に重要なことかと思うので、考慮いただければよいのでは。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対応できるかを含めて、検討してまいります。
8	4-4 低周波音	塩田	<ul style="list-style-type: none"> ・音圧レベル80Hz以下の音圧レベルの分析値が資料編に載っているので、周波数1Hzから80Hzまでのオーバーオール音圧レベルも一緒にグラフ化するか、音圧レベルとG特性のグラフを別にして表示をすれば、稼働したときに音圧レベルがどうなるかが分かりやすくなるのでは。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価書の作成において、これらのデータの示し方を検討してまいります。

	区分	委員名	発言要旨	事業者の説明要旨
9	4-5 悪臭	片谷	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物運搬車両の洗車にともなう悪臭が現行の施設であるようだが、新しい施設運搬車両の洗車はどこですか。パッカー車の内部を蓋を開けて洗うことで、臭気が発生しやすくなるのが想像できる。 ・もし内部洗浄を実施する場合は、類似事例について調べ、悪臭苦情が発生していないかを確認していただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・屋内に洗車場を設ける計画です。また、パッカー車の内部洗浄については、今のところ計画していませんが、今後、必要があれば検討していきたいと考えております。 ・了解しました。
10	4-6 水質	鈴木	<ul style="list-style-type: none"> ・降雨時調査を増やしていただいたことは非常に良いことであるが、降雨のピークの時間と調査時間にずれが生じているため、工事中の事後調査時には、降雨時にすぐに測定してもらいたい。 ・土砂降りの際、もっと早く沈砂池では吸収できず流れるということも考えられるため、ご考慮いただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・工事中の降雨時の事後調査については、現場に作業員がいるため、降雨時の速やかな採水等の対応ができるものと考えております。 ・仮設沈砂池等の容量については、具体的な整備計画が確定した後、検討を進めていくことになると考えております。
11	4-8 土壌汚染他	小澤	<ul style="list-style-type: none"> ・準備書498ページの土壌汚染の予測内容に関する「焼却施設の稼働の影響」について、方法書では環境基準項目として評価するということになっていたが、準備書においてはダイオキシンのみ評価するという形になっている。この変更の理由はあるのか。 ・方法書で取り上げられた事業の計画値（排ガス・埋立処理物関係）の中で、準備書の中で落ちているものがいくつか見られるが、変更された理由はあるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・焼却施設からの排ガス中のダイオキシン類による周辺土壌の影響が考えられるため、環境基準項目のダイオキシン類を選定したものです。なお、方法書での記載は、環境基準項目の中にダイオキシン類を含ませてしまったため、このような表記になったものです。 ・廃棄物の排出等については、法規制に従い行うもので、当連合が独自に上乘せして計画値を定めるものではないと判断したことから削除したものです。また、一酸化炭素の計画値については、予測評価の対象としないことから、準備書での掲載は削除しましたが、事業計画では掲げております。
12	4-10 植物	大塚	<ul style="list-style-type: none"> ・限定された個体で見ているため、樹木活力度の調査範囲について、良好といえるか。 ・準備書522ページに秋季以降の調査結果は資料編に掲載とされているが、どこに掲載されているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活力度調査については、既存施設の近くで、周りの木の圧力を受けていない等の樹木を選定し、調査しました。 ・秋季以降の結果については欠落しているため、後ほど資料を整理してお示しいたします。

	区分	委員名	発言要旨	事業者の説明要旨
13	4-11 動物	陸	<ul style="list-style-type: none"> ・準備書556ページにおいて、種の同定がされていないためかコウモリ目の種名が「コウモリ目の一種」とされているが、準備書112ページのコウモリ目の種のリストの中にはいくつか貴重な種が含まれているため、観察した種であるかということの確認が必要ではないか。 ・サンマリーンながのを撤去することから、そこをねぐらにしているコウモリがいるかということの調査も必要ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コウモリ目については、捕獲しないと種名を判断することができないため、今回はコウモリ目の一種という表記としていますが、バットディテクターによる周波数が約45～50キロヘルツであること、またその大きさから、アブラコウモリでほぼ間違いないと考えております。 ・サンマリーンながのについても調査は行いましたが、コウモリ目の出入りは確認されませんでした。
14	4-11 動物	中村 (雅)	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1の77ページについて、影響はほとんどないという判断だが、ほとんどないと考えたら、事後調査はしないのか。 ・考えられないから調査をしないということはおかしいと思う。逆にこういう工夫をしたら増えたと、住民が喜ぶようなことをやってもいいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・犀川河川敷に生息する動植物や生態系の事後調査は実施ませんが、水路の水質や騒音振動といった事後調査を行い、現況とほぼ変わらないという確認が取れば、河川敷の動植物や生態系への影響はないと考えております。 ・事業者として新しい施設が出来て、ここが良くなったと言っただけのよう、周辺整備という面からも関係市町村と調整を行い、検討させていただければと思っております。
15	4-11 動物	中村 (雅)	<ul style="list-style-type: none"> ・大幅な川の増水の際、中の薬剤や使っているものが流れ出てしまうのではという気がするが、そういった問題はないか知りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画施設においては、災害時はもとより、二次的な災害を防ぐための対策については、施設を造る計画の中で当然配慮しなければならないことと考えております。
16	4-14 触れ合い活動 の場	陸	<ul style="list-style-type: none"> ・評価方法について、現場を実際に触れ合い活動として使っている方々がどういう評価をしているのか、感じているのかということに基づいて評価をしないとちゃんとした評価にならないと思うがどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、既存焼却施設が稼働する中で、触れ合い活動の場の利用がなされており、このことから、既存施設の隣接地に建設する計画施設による直接的な影響はないと考えております。また、交通量が10,000台を超える堤防道路により市街地と隔絶されているため、本事業の影響は直接及ばないと考えております。
17	4-14 触れ合い活動 の場	亀山	<ul style="list-style-type: none"> ・現況を良しとするような前提で言うのではなくて、こういった空間がどう利用されるかということについて、長期的に考えた時の予測評価の考え方というものもあるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の河川敷の土地利用については、ほとんどが農用地の利用となっており、河川敷へのアクセス道路も整備されていないことから、それほど活発ではないという現状でした。なお、この現状を良しとして予測・評価をすることについては、今後検討させていただきたいと思っております。

	区分	委員名	発言要旨	事業者の説明要旨
18	4-17 温室効果ガス	亀山	<ul style="list-style-type: none"> ・ 溶融炉で使われる電気については、どういった状況か。 ・ 溶融炉のことがほとんど出てこないですので、ここはきちんと書き分けておいた方が良いでしょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 溶融炉の稼働電力については準備書に記載しておりませんが、準備書678ページに溶融炉を含めた焼却施設の稼働電力を記載していることをご理解いただきたいと思います。 ・ 溶融炉の記載について、不足している部分を改めさせていただきます。